

## 1750 | 教育相談論

2 単位 (通信授業 2 単位)

伊東毅教授

## 授業の概要と目標

本授業科目は、教育職員免許法施行規則上の「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」に相当するものである。教育相談やカウンセリングの理論・実践を、その歴史的経緯をおさえながら学ぶことを目的とする。教育相談やカウンセリングの成り立ち、及びこれらが立脚する基礎理論を学ぶことからはじめ、いじめ・不登校・非行などの諸問題にかかわる具体的な実践をも考察していく。

## 課題の概要

## ○通信授業課題 1

「フロイトに基礎を置く精神分析療法とロジャーズに基礎を置くカウンセリングのそれぞれの特徴を指摘した上で、それらのメリットおよびデメリットについて論じなさい。」

上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

## ○通信授業課題 2

「いじめ・不登校・非行などの教育問題に対して、どのような教育相談の方法やシステムが有効か、これまでの文部科学省（含かつての文部省）の対策にも触れながら論じなさい。その際、議論を具体化するために、一つの教育問題に焦点を絞ってもよい。」

上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

\* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

教科書『新しい教育相談論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

- 第 1 章 教育相談とは何か
- 第 2 章 教育相談をめぐる学校教育政策の動向
- 第 3 章 教育心理学の基本
- 第 4 章 発達理論の基本
- 第 5 章 友人関係・社会性の発達
- 第 6 章 発達障害の理解と支援
- 第 7 章 カウンセリングの基本
- 第 8 章 心理療法の理解
- 第 9 章 いじめの実態と対策の動向
- 第 10 章 不登校の実態と対策の動向
- 第 11 章 非行少年の実態とその処遇
- 第 12 章 問題行動とカウンセリング
- 第 13 章 道徳教育と教育相談
- 第 14 章 多文化をめぐる対応
- 第 15 章 宗教と多文化をめぐる学校教育政策の動向

## 成績評価の方法

## ◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 教職課程に登録していること。

[備考] 2 年次の履修が望ましい。

## 教材等

教科書：高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』（武蔵野美術大学出版局 2016 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）